

学校では子どもたちが日々たくさんのことを学んでいる様子を見ることができます。特に、遊びや勉強、そして運動をしながら「できるようになった！」と子どもたちが実感できることが多いようです。一人ひとりの学びを豊かに、そして深いものにしてくれるのは、仲間が存在があるかもしれません。しかし、子どもに夢を持たせるもの、自分のあこがれる姿を描くことができるようにさせてくれるのは何なのだろうと思っていました。そんなとき、5年生の女子と会話する機会があり、「あなたはどのような人になりたいと思いますか？」と聞くことができました。そのときに、彼女は「私はウォルト・ディズニーのような人になりたいです。どうしてかという、多くの人々を笑顔に、そして幸せにしてあげることができるような仕事をしてみたいと思うからです」と話してくれました。なるほど、このようなことは日常の人々との関わりだけではなかなか考えられることではないな、いわゆる伝記というものや、多くの書物から学ぶことができるのだろうなと思いました。

毎日とっても忙しいと言われる今の子どもたちですが、日々の人間関係から学ぶことだけでなく、先人の生き方から学んだり、夢とあこがれを持ったりすることが大切であると改めて考えました。

【通学路で】

まもなく梅雨が明けようとしています。雨の日は栗平駅から学校までの通学路に傘の花が咲きます。このように書くとまるできれいな花を想像されるかもしれませんが、実は普段以上の混雑が通学路で起きています。小学生が中高生と同じ速さで整然と歩くことができなければよいのですが、どうしても隣を歩く友だちとおしゃべりがしたい、隣だけならまだいい方で、両隣さらにはこれが前後となると、この小学生の影響で学園に向かう児童生徒の流れは一機にスピードダウンしてしまうこととなります。さらに大きな問題は、栗平駅方向に向かわれる近隣の方々の迷惑になることです。

このようなことへの対応も含めて小学校で子どもたちによく話すことは次のような内容です。

- ・電車に乗るときは一つの入り口に多人数が集まらないようにする。
- ・他の方の電車の乗り降りの際の迷惑にならないようにする。(背中にランドセルがあることも忘れない)
- ・車内やホームでは走ったり、大きな声を出したりしない。
- ・通学路では必ず道路側を人が通れるだけの場所を空けて歩く。

特に、最後のことについて子どもに話すと「はい、ちゃんとあけています。反対側から人が来たらそうしています。」という声が聞こえてきます。しかし、ここで言う「人が来たら・・・」というのは、実は反対から歩いて来た人とぶつかる直前のことであることが多いのです。反対側から歩いてくる人が、もうぶつかりそうだと思うくらいで道をあけることが相手の気持ちを思えばどうかということとは理解できるはずなのですが、そういうことが実際にはなかなかできていません。

最後にもう一つお願いですが、車での子どもの送迎について、

- ・小学校前の駐車場で子どもを乗り降りさせるようお願いをしていますが、道路の横断(横断歩道がなく見通しの悪い場ですから)の際は必ず保護者が車から降り安全の確認をする。また、それが面倒だからと言って、駐車場以外の場所(Bグラウンドや農園付近、さらには尾根道の反対側など)で乗り降りさせることのないようにする。このことお子さんの安全のために必ず守っていただきます。

【七夕の願い】

子どもたちが短冊に書いた願いごとを読ませてもらいました。「世界平和」「家族の健康」から自分の夢がかなうようにという内容のものまで様々でした。クリスマスときの願い事と大きく異なるのは、それぞれの願いを持つだけでなく「今の自分にできること・自分がしなければならないこと」を考えているように感じられることです。

願いをかなえるために何か行動しようとするのは素晴らしいです。そういう気持ちを持つ子どもたちをそばで応援できることは私たちの喜びでもあります。

朝日新聞 折々のことばに、大リーグで活躍するイチロー選手のことばが紹介されていました。

・・・ 「できなくてもしょうがない」は、終わってから思うことであって、途中でそれを思ったら、絶対に達成できません。・・・ 心に残る、いえ、心に残したい一言だと思いました。

【2年生の話し合い】

2年生の学級会をのぞいてみました。意見の発表の仕方に感心しました。

「私は・・・思います。なぜかという・・・だからです。」このような意見発表の練習をしていたのですが、きちんとそのように言える子どもたちだけでなく、一人ひとりの発表をしっかりと聞きこうとする子どもたちの姿勢も素晴らしいと感じました。こういうことの積み重ねが本当に大切です。